

風しん追加的対策事業で 麻疹風しん混合ワクチンの予防接種を受けるにあたっての説明書

この予防接種は定期予防接種です。接種の前にこの説明書を読み、効果や副反応をよく理解しましょう。不明な点は、予防接種を受ける前に医師に質問し、十分理解した上で接種を受けて下さい。

【風しんについて】

風しんは、風しん患者のせきやくしゃみに含まれる風しんウイルスの感染によっておこる病気で、潜伏期間は14～21日間です。軽いかぜ症状ではじまり、発熱、発疹、耳の後ろのリンパ節の腫れなどが主症状とされていますが、症状が出ないこともあります。抗体を持たない妊娠初期の妊婦が風しんウイルスに感染すると、心疾患、難聴、白内障などの障がいを起こす先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれることがあります。

【予防接種の効果】

予防接種を受けると95%以上が免疫を獲得することができます。

【予防接種の副反応】

主な副反応は、発疹、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節の腫れ、関節痛などです。稀に生じる重大な副反応は、ショック、アナフィラキシー、急性血小板性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎、脳症などが報告されています。

【予防接種を受けることが出来ない方】

1. 明らかに発熱（通常37.5℃以上）している
2. 重い急性疾患にかかっている方
3. この予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（全身のアレルギー反応）を起こしたことがある方
4. 妊娠していることが明らかの方または妊娠している可能性がある方
5. その他、医師が接種が不適当な状態と判断した方

【予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはいけない方】

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある方
2. 過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱、全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がみられた方
3. この予防接種の接種液の成分に対して、アレルギーを起こす恐れがある方
4. 過去にけいれん（ひきつけ）を起こした方
5. 過去に免疫不全の診断をされたことがある方および近親者に先天性免疫不全の方がいる方

【予防接種を受けた後の一般的な注意事項】

1. 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
2. 接種後4週間は副反応の出現に注意しましょう。
3. 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこするのはやめましょう。
4. 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
5. 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
6. 接種後2か月間は避妊する必要があります。

【健康被害救済制度について】

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になった場合や、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金等が支給されます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所の予防接種担当課へご相談ください。